

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	24000001	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	知識と技術の世代間伝播の霊長類的基盤		
研究代表者名 (所属・職)	松沢 哲郎（京都大学・霊長類研究所・教授）		

【平成27年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

本研究は、ボノボの導入によるチンパンジーとの比較研究を含め、新しい知見が着実に積み上げられ、全体として極めて順調に進展している。研究成果はトップジャーナルを含む国際英文誌にコンスタントに発表され、論文の被引用数も年々増加している。研究代表者に対する海外からの招待講演の数も多く、海外からの評価も非常に高い。また、若手研究者の人材育成にも成功している。国内向けのアウトリーチ活動も活発に行われ、長年の成果は、いまや日本を代表する科学研究の一つと評価できる。研究課題である「知識と技術の世代間伝播」に関しては、飼育チンパンジーの繁殖の不調やエボラ出血熱による野外調査の中断などの諸事情もあり、当初予定よりも遅れた部分もあるが、飼育施設の大規模な拡充や新しい実験ブースの新設など、当初目標を超える進展もある。今後は、人間理解という更なる大きな命題に向けて、理論構築も含め、人文・社会科学との一層の連携が期待される。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	本研究により、チンパンジーとボノボの知識や技術、文化の世代間伝播の霊長類的基盤について、野外調査追跡研究と実験比較認知科学の方法論を併用して解明し、さらにヒトの乳幼児とも比較対照して人間進化についての画期的な知見が得られた。その研究成果は、国際的な学術誌において精力的に発表されており、研究成果の公表という面でも申し分ない。
A+	知識と技術の世代間伝播の霊長類的基盤について明らかにするという当初目標を大きく超える研究の進展があり、期待以上の研究成果があったと判断する。

特記事項：上記評価は平成29年9月6日に開催された科学研究費委員会審査・評価第一部会運営小委員会において決定されたが、本研究課題において研究代表者による研究費の不正使用が行われていたことが明らかとなり、研究代表者に対し、令和2年9月1日付けで本研究課題の交付決定の一部取消及び返還命令について、令和2年9月16日付けで日本学術振興会が交付する研究資金を一定期間交付しない旨、通知した。なお、当該研究費の不正使用については、研究代表者の所属研究機関の調査により認定されたものであるが、現在、当該所属研究機関と研究代表者との間で係争中である。